

発行
平成29年9月30日

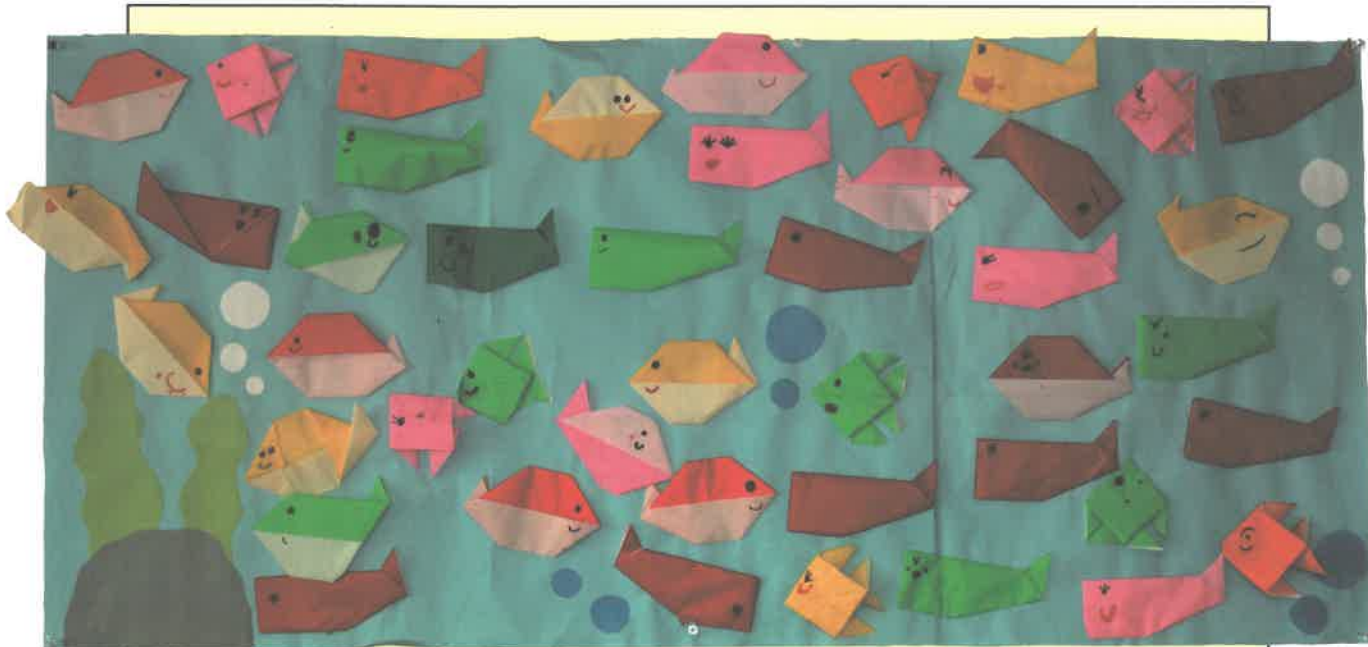
責任者
当別町民生児童委員協議会
会長 岸田 勤

ゆとっちとうべつ

民生委員・児童委員発

災害時一人も見逃さない運動

No.41



「さかなたち」 ふとみ保育所5歳児ばらぐみの皆さんの作品

この人 クローズアップ

今年四月に「就労継続支援A型事業所ファームアグリコラ」がオープンしました。その代表理事の水野智大さんに伺いました。障害をもつ方々の就労現場にはいろいろな問題があるようです。看護師として臨床経験豊富な水野さんご夫婦が、そんな現場に正面から向き合っています。

「この事業所を開設したきっかけは？」

私がファームアグリコラを立ち上げたきっかけは病院で行う精神科医療の限界にありました。精神疾患の薬物治療が始まって五十年以上が経過した今、症状を和らげる薬は開発されても、治療することが出来る薬は残念ながら開発されていません。逆に薬物治療に頼るあまり、副作用に苦しむ当事者を幾度となく見きました。

私が出した結論は生活していく中で、当事者が病気とどう付き合っていくのかということをサポートすることでした。「働く」ということを当事者の生活に組み入れることで、収入を得る。これは、当事者が自らの力で得た生活する力だと思えます。福祉はこれまで「支えること」に重心を置いて歩んできたところから大きいと私は思っています。これからは「支えること」だけ

ではなく、社会と当事者が「支え合うこと」という意識を持つことが必要です。ファームアグリコラでは養鶏と野菜栽培で得た収入から必要経費を除いた分を利用者に賃金として支払っています。農業で得た収入は運営スタッフに支払われることはありません。今後賃金の確保をするためにも加工品も視野に入れた運営をしています。

「取材をして・・・」

ファームを訪れた日は、前日までの大雨が嘘の様な好天気。取材の帰り際「臭うでしょう。」

雨の前までこの臭いなかつたんです。」と悔しそうな水野代表の顔。言われる程、鶏舎特有の悪臭がしない事に私達は気が付く。又、野菜栽培も余分な農薬肥料を使用せず生産するとの事。こだわりの鶏卵は、ふれあい倉庫等で販売しています。

今後共、就労者の利益を優先し、こだわり商品の販路拡大、地域が共に支え合う町になってほしいと願っています。



「ファームアグリコラ」代表理事 水野智大さん
取材者 今井奈美子・大和順子

ずーっと一年生—ただ今勉強中—

制度創設百周年記念
北海道民生児童委員
大会に参加して

(西町) 宮中 由香里



六月十三・十四日両日に渡り参加して参りました。大正六年の済世顧問制度創設から百年という記念すべき年に全道より二千名を越える民生児童委員が一堂に会しました。

大会一日目は上野谷加世子氏を講師に迎え「民生委員制度百年の歩みとこれからの展望」地域共生社会創造に向けて」と題し、民生児童委員はその時代時代の変化に沿った地域福祉の担い手となり、また住民の最も身近な相談役として寄り添い安心して住み慣れた地域で暮らす。そして誰が・誰を・どのように？を繋ぐ中心点となり「お互い様」の精神で力を発揮して下さい、講演がありました。担当

する地区でも高齢化が進む中、在宅サービスも増え、より細かな見守りの重要性を感じています。

大会二日目、記念講演は倍賞千恵子さんによる「歌うこと、演じること、そして生きること」ユーモアたっぷりに映画での裏話やアカペラでの伸びやかな歌声に魅了され、いつも「今から・ここから」を心掛けて過ごされているというお話でした。

続いての「伊藤多喜男ライブステージ」ではパワー溢れる時間を過ごせました。

これからも地域に寄添う想いで続けていきたいと思えます。



賠償千恵子さんによる記念講演「歌うこと、演じること、そして生きること」

道内視察研修
に参加して

(栄町) 長谷川 廣美



私は昨年より民生児童委員として大役を賜り半年が過ぎました。今回初めて道内研修に参加しました。六月二十二日から一泊二日の日程で委員二十八名が参加し、浦河町社会福祉法人「べてるの家」を視察しました。

昭和五十九年に「べてるの家」が設立され、障がい者自立支援施設として現在に至っています。最初はべてる宣伝部長、伊藤知之さんから施設の説明、作業の内容についてお話があり、その日は日高昆布の袋詰め等が行われていました。

現在は六つの事業を運営し百人近いスタッフがおり、百四十人余りのメンバーを対象に地域に根ざした支援を続けています。宿泊は、みついし昆布温泉に

て親睦を深める交流が出来ました。二日目は、社会福祉法人「静内ベテカリー」を視察しました。就労継続B型支援を通じて生活が豊かになる事を支援しています。今回の研修を通じて民生児童委員活動に生かして行きたいと思えました。



「べてるの家」作業風景

「和音」による
音楽セラピー
に参加して
(スウェーデンヒルズ)
山上 一郎



真夏の日に、澄んで優しくも柔らかな力強さを伴い「記憶の

扉を開けるカギ」とも評される音楽セラピーが七月定例会後、当別町「和音」の新森、藤原、渡邊、柴野各先生のご指導で行われました。

先生方のリードで、若かりし頃親しまれた曲を中心に参加者全員で口ずさみながら往時を楽しく蘇らせるとともに、鳴子等を使ったリズム動作により、指先から五感へと心身ともに活性化されていく感じがしました。

人間齢を重ねると記憶力が衰え、且つ頑固になり思わぬトラブルの原因ともなりがちですが、音楽セラピーは静かに思いを蘇らせ、心を平穏にし、相談事をお受けするときも、時にはお叱りを承る際ですら素直に傾聴できる魔法の力を秘めているかのようです。

この素直さを持續しつつ民生児童委員活動に有意義に生かしていきたいと思っております。



和音による音楽セラピー

笑顔になれるひと時

日々の生活、笑顔になれる時は、どんな時でしょうか。笑顔には人を幸せにする「ふしぎな力」があります。

白球をみつめて

(北栄町) 津崎 里美



三度の飯より野球が好き、雪が解けるとわくわくします。今年の日ハムの戦績には閉口です。

野球好きが野球を…とはいかず、ここ二十年余ソフトボールの公式記録員をライフワークにしています。道内の中高生や大人の方達の試合、時にはオリンピックで活躍する選手の試合をバックネット裏で観ています。選手達の「一挙手一投足」を見つめA四判のカードに経過を書き落してゆきます。瞬時にヒツトかエラーかなどの判断を求められることも多く、大きな試合になると緊張感に押しつぶされそうになります。けれども選手達の一所懸命のプレーにはこちらにも真摯に向き合わなくてはと

思い記帳作業を続けます。大会になると朝の集合時間が早かったり、底冷えするような寒さや雨風などの悪天候の中の試合だったり、いつも笑顔でとはいきませんが、一心不乱にボールを追う姿にたくさん「元氣」をもらっています。これからも自身の体力と相談しながら一年でも長く続けていきたいと思っています。



公式記録員章



バックネット裏で(右から2人目)

映画は心の栄養剤

(スウェーデン) ヒルズ

藤岡 克己



笑う。特に腹の底からの笑い、心身の健康と若返りに良いそうです。

子育ても終わると、笑うことがめつきり少なくなりました。可笑しくなくても声を出して笑うと良いそうです。しかし、一人で居て、ただ笑っているのを想像すると、かなり気持ちが悪いですよね。

反対に、私はよく泣きます、と言っても普段からめめそしている訳ではありません。良い映画に出会って感動したときには、とにかく泣けてきます。涙もろいのは若いころからですが、更に歳と共に凶々しくもなつて、涙腺が緩み映画を観ながら、あたりかまわずティッシュを濡らしてしまいます。



最近、ティッシュが減った映画を一つご紹介しますね。「あなた、その川を渡らないで」という韓国映画です。舞台は韓国の小さな村。十五ヶ月にわたつて、九十八歳のおじいさんと、八十九歳のおばあさんの日常を淡々と追つたドキュメンタリーです。春は野花を摘んでお互いを飾り、夏は小川の水を、秋は枯葉を、冬は粉雪を掛け合つて戯れる。出かけるときは、いつも一緒に手をつないで歩きます。二人の何気ない日常から、おじいさんの老妻に対する、深い愛情がジーンと伝わってきます。帰路には満足感で、自然に笑みがこぼれました。

ひとりごと

月日のたつのは早いな!!
二〇〇六年還暦の記念でホルムラソンを走つて、もう十一年も経過してしまいました。一緒に走つて走つた八十八歳と七十六歳のランナーはもうこの世にいな、天国で仲良く楽しく走っている事でしょう。「私の年まで頑張つて走りなさいヨ」と言つてくれる様な気がします。この間、二人の子供は独立し、お陰でかわいい孫が二人できました。昔から「孫は目に入れても痛くない」と言われていますが、ほんとうですね。七歳と二歳の姉妹は、いつも仲良く絵を描いたりお人形で楽しく遊んでいます。たまあに「じいじ、これからもはしるのがんばつてげんきでね♡だいすき♡」と手紙をくれます。それを読んでいつもニコニコ顔の私がいる。
「うれしいな、ありがとう!!
せめて孫たちが成人を迎えるまで元気で走つていたいなあ、そして一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。民生児童委員になって始めた「ひよっとこ踊り」も早や十年になります。老人施設等を訪問し踊ると笑つて喜んでくれます。こちらから皆さんから笑顔と元氣をもらつて帰ってきます。
(Y・O)

子育てを支援！ 地域ではぐくむ子育て支援

～教育委員会子ども未来課の取り組み～

いつの時代も子供の誕生は、未来への希望です。町では、教育と児童福祉の両方の視点から子供の育ちを支援するため、平成28年度に子育て支援に関する業務を教育委員会に集約し「子ども未来課」を新設しました。

この見直しにより民生児童委員をはじめ地域の方々との連携のもと、子供の成長にあわせ、継続性を持った子育て支援、保育そして義務教育へとスムーズに繋げる体制を整備しました。

地域の子育て支援拠点 子育てセンター

教育委員会では、地域と連携し、すべての子供達が笑顔で成長していくための中核として、子育て支援センターを運営しています。子育て支援センターは、「ゆとろ」と「ふとみ保育所」

内で開設しており、保育士資格等を持つ職員が運営を担い、子育てや子供の健やかな成長に役立つ様々な「子育て講座」を開催しています。今年度は、子育て講座の充実を図り、新たに地域の伝統文化や習慣に親子で触れたり、高齢者や当別高校の学生等との世代間交流を促進する講座を地域の方々と様々な組織・団体等のご協力をいただく中で開催していきますので、ご紹介いたします。

地域と連帯した 子育て講座

「上半期開催講座」

離乳期講座、誕生記念プレイトづくり、わらべ歌あそび、英語であそぼう、お口の健康講座、リフレッシュ！バランスボール教室、ベビーヨガ、人形劇、トールペイント、フラワーアレンジメント、絵本の読み聞かせなど様々な講座を開催しました。

「下半期開催予定講座」

十月二十三日（月）

キッズ運動会

十一月十三日（月）

もちつき体験

十一月二十七日（月）

親子クッキング講座

十二月二十五日（月）

世代間交流事業

これらご紹介しました講座以外にも多数の講座を予定しており、町広報誌やポータルサイトなどで都度、お知らせいたします。

また、子育て支援センターではその他に、あそびの広場事業など親子の交流促進事業、子育て関係情報の発信、子育てに関する相談対応を行い子育てを総合的に支援しています。

子育てガイドブック 発行

発行

今年度、子育て中の方々などのご意見をいただきながら全面的に見直しを行いました「当別町子育てガイドブック」を発行しています。ガイドブックには、妊娠・出産から小学校入学までの様々な子育て関係情報が盛り込まれており、多くの方々に手に取って観ていただきたいので、この機会にご紹介いたします。子育てガイドブックをご希望の方は、教育委員会子ども未来

課子育てサポート係（ゆとろ内）までお申し出ください。

最後になりますが、全国的にも少子化の時代、未来を担う子供達のために、今後とも地域の皆様方のご協力をお願い致します。



当別町子育てガイドブック

当別町教育委員会 子ども未来課

子育てサポート係

☎二五・二六五八

- 主任 茂木 真佐実
- 主任 小林 律子
- 主任 金木 雅美
- 主事 刑部 由美子



子育てサポート係スタッフ

編集後記

初夏の異様な暑さと大雨、そして「北冷西暑」と言う呼び名の肌寒い夏。今年の天気は気紛れですね。表紙の「さかなたち」も無や戸感ったことでしょうか。暑ければ「もう少し涼しく」寒ければ「早く暖かくなれ」と自分勝手な言葉がつい、口から零れます。

さて、新企画「この人 クロゾアツプ」は就労継続支援A型事業所「ファームアグリコラ」から水野代表を、そして六月に行われた制度創設百周年記念北海道大会等々、盛り沢山の内容でお届けできる事、広報委員一同大変嬉しく思います。

多忙な中、ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。そして、これからも皆様のご協力、心よりお願い致します。

(N・I)

広報委員会

広報委員 曾川 昭治(高岡)

尾崎 勉(中小屋)

尾崎 吉宏(太美寿)

今井奈美子(元町)

大和 順子(旭町)

事務局 当別町

福祉部福祉課福祉係